

平成30年度 石川県立盲学校 自己評価計画書

重点目標	具体的取組	担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
① 授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観や授業整理会等を通して授業改善を行う。 各自の授業を振り返り、授業改善に活かすために、授業の内容や児童生徒の様子・評価等を記録する。 	教務課	<p>新学習指導要領の学力観に沿いながら、児童生徒の学力を向上していくために、教員各自が、日々の授業を振り返り、授業力を高めていく必要がある。</p>	<p>【成果指標】 授業改善に取り組み、授業力が向上する。</p>	<p>各自の授業力が向上し、児童生徒の学力も向上したと感ずる教員の割合が A： 80%以上 B： 60%以上 C： 50%以上 D： 50%未満</p>	<p>中間評価がC以下の場合、内容や取組について検討する。</p>	アンケート評価により判定
				<p>【満足度指標】 保護者、療養科生徒が授業に満足している。</p> <p>保護者アンケート</p>	<p>授業が工夫されており、わかりやすいと感じる保護者や療養科生徒の割合が A： 80%以上 B： 60%以上 C： 50%以上 D： 50%未満</p>	<p>中間評価がC以下の場合、内容や取組について検討する。</p>	アンケート評価により判定
② キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 集団の中での学びを通して、各自が卒業後を考え、人間力を高めていくために、他校や関係機関との交流活動を更に充実し、卒業後につながる体験活動を行う。 	全学部 寄宿舎	<p>小中学部は学校間交流や居住地校交流、療養科はマッサージ等の施術を通して、各学校や地域の人々と交流しており、より一層充実した交流活動を続けていく必要がある。</p>	<p>【努力指標】 目標に応じた交流活動を、計画的に実施する。</p>	<p>交流の目標回数に対する達成率が A： 80%以上 B： 60%以上 C： 50%以上 D： 50%未満</p>	<p>中間評価がC以下の場合、内容や取組について検討する。</p>	アンケート評価により判定
				<p>【満足度指標】 保護者、療養科生徒が交流活動に満足している。</p> <p>保護者アンケート</p>	<p>交流活動に満足していると回答した保護者や療養科生徒の割合が A： 80%以上 B： 60%以上 C： 50%以上 D： 50%未満</p>	<p>中間評価がC以下の場合、内容や取組について検討する。</p>	アンケート評価により判定
	<ul style="list-style-type: none"> 行事や日常生活を通して、主体的に挨拶する態度を身につける。 接遇マナー研修や進路を考える会を通してコミュニケーションの能力の育成を図る。 	指導課 全学部 寄宿舎	<p>決まった場所で挨拶する児童生徒は増えているが、主体的に挨拶を行う習慣が十分ではない。</p>	<p>【成果指標】 主体的に挨拶を行う。</p>	<p>自発的に挨拶することや他者と積極的に会話できるようになったと回答する児童生徒の割合が A： 80%以上 B： 70%以上 C： 60%以上 D： 60%未満</p>	<p>中間評価がC以下の場合、内容や取組について検討する。</p>	チェック表により判定
				<p>【成果指標】 研修等で学習した内容について、各生徒が目標を立て実践する。</p>	<p>目標を達成した生徒の割合が A： 85%以上 B： 70%以上 C： 55%以上 D： 55%未満</p>	<p>中間評価がC以下の場合、内容や取組について検討する。</p>	アンケート評価により判定
③ 専門性の向上とセンター的機能の充実	<p>歩行指導やロービジョン補助具活用に関する実践力の向上につなげるために、実践事例シートを作成し、研修会等を行う。</p>	支援課	<p>教員全員が、手引き歩行の体系的な学びや補助具活用指導が十分であるとは言えず、学校全体で専門性向上を図る必要がある。</p>	<p>【努力指標】 児童生徒の実態を把握し、個々に応じた指導を行い、成果を教員全体で共有する。</p>	<p>実践事例シートを作成し、職員全体で共通理解できた児童生徒の割合が A： 100% B： 80%以上 C： 70%以上 D： 70%未満</p>	<p>中間評価がC以下の場合、内容や取組について検討する。</p>	チェック表により判定
	<p>県内の小中学校からのニーズを踏まえた視覚障害教育に関する研修の開催を県内の小中学校及び関係機関等に広く案内する。</p>	支援課	<p>特別支援学級や通常学級に弱視等の児童生徒が在籍しているが、県内の小中学校等においては視覚障害教育に関わる情報が不足している。</p>	<p>【努力指標】 ホームページ等を通して視覚障害に関する研修会の開催情報を積極的に発信する。</p>	<p>ホームページ等を活用して、視覚障害教育の研修会についての情報発信回数が、 A： 5回以上 B： 3回以上 C： 2回以上 D： 2回未満</p>	<p>中間評価がC以下の場合、内容や取組について検討する。</p>	実施回数により判定
④ 業務の効率化	<p>各教員が所有する教材・教具を共有し活用しやすくするため、閲覧環境を整備して、教材準備に係る業務の効率化を図る。</p>	情報係 全学部	<p>学部の教材・教具を保存、保管する環境が十分に整っておらず、教材準備等に時間を要している。</p>	<p>【努力指標】 教材・教具を提供し、教員全体で共有して活用する。</p>	<p>教員が教材・教具を提供・活用した回数が A： 20回以上 B： 15回以上 C： 10回以上 D： 10回未満</p>	<p>中間評価がC以下の場合、内容や取組について検討する。</p>	チェック表により判定